

# ネットワーク ライセンス レポート ログ解析ツールの使用方法

## 目次

ネットワーク ライセンス レポート ログ解析ツールの使用方法 .....	1
インストール .....	1
使用方法 .....	2
起動 .....	2
解析結果の出力 .....	3
解析結果の例 .....	9
種別で「ユーザー」「ホスト」「ユーザー@ホスト」を指定したとき .....	9
種別で「製品（最大同時使用ライセンス数）」を指定したとき .....	9
種別で「製品（拒否数）」を指定したとき .....	10
レポート ログの分割 .....	12
rlmutil.exe を使用してレポート ログを分割する方法 .....	12

## インストール

インストールは必要ありません。

LogCheckNeo.exe を任意のフォルダに置き、ダブルクリックすることにより実行されます。

※ .NET Framework 4.0 以上がインストールされている必要があります。

## 使用方法

### 起動

1. LogCheckNeo.exe を任意のフォルダに置きます。
2. LogCheckNeo.exe をダブルクリックすると起動されます。

The screenshot shows the 'ネットワークライセンスレポートログ解析ツール' (Network License Report Log Analysis Tool) window. It is divided into two main sections: '手順① ログファイル読込' (Step 1: Log File Loading) and '手順② ログファイル集計' (Step 2: Log File Aggregation).

**手順① ログファイル読込 (Log File Loading):**

- A large empty text box for file paths.
- Buttons: '選択' (Select) and 'クリア' (Clear).
- Buttons: 'ログファイル読込' (Load Log File).
- Input fields: 'サーバ名' (Server Name), 'ログ期間' (Log Period) with a range selector (~).

**手順② ログファイル集計 (Log File Aggregation):**

- 種別 (Category):** Radio buttons for 'ユーザー' (User), 'ホスト' (Host), 'ユーザー@ホスト' (User@Host), '製品(最大同時使用ライセンス数)' (Product (Max Concurrent Licenses)), and '製品(拒否数) :しきい値 1 分' (Product (Denial Count) :threshold 1 min).
- 単位 (Unit):** Radio buttons for '時間' (Time) and '日' (Day).
- 出力ファイル (Output File):** Radio buttons for '単一(全製品)' (Single (All Products)) and '製品別' (By Product).
- 出力ファイル形式 (Output File Format):** Checkboxes for 'CSV' and '少数桁数 1' (Number of Decimal Places 1).
- 期間 (Period):** Two date pickers with a range selector (~).
- Buttons: '選択' (Select), 'ログファイル集計出力' (Output Log File Aggregation), '設定リセット' (Reset Settings), and '閉じる' (Close).

## 解析結果の出力

以下の手順で解析結果を出力します。

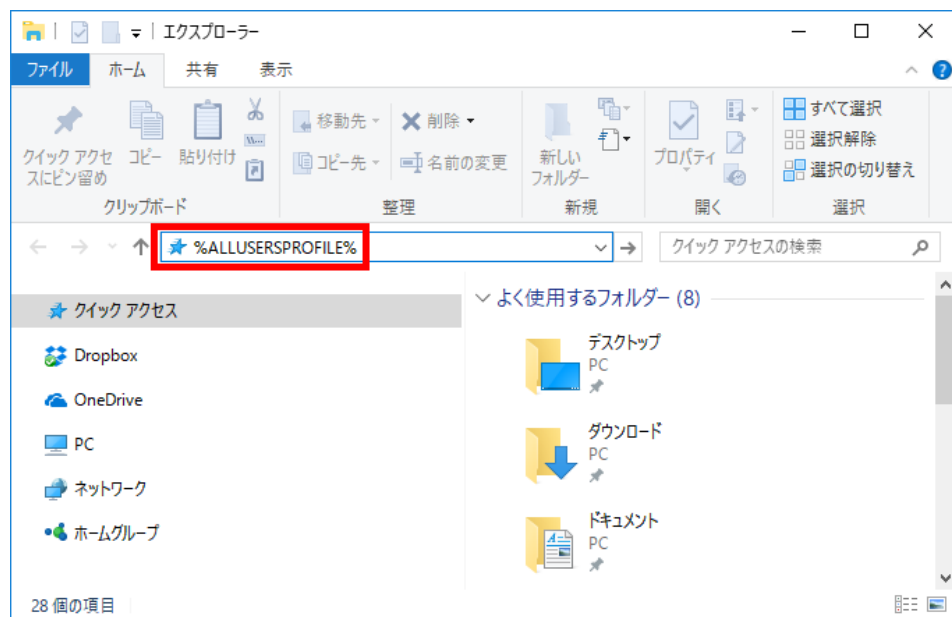
1. 解析を行うレポート ログを選択します。

- ① ライセンス サーバーの以下のフォルダにあるログファイル (report.log) を任意のフォルダにコピーします。

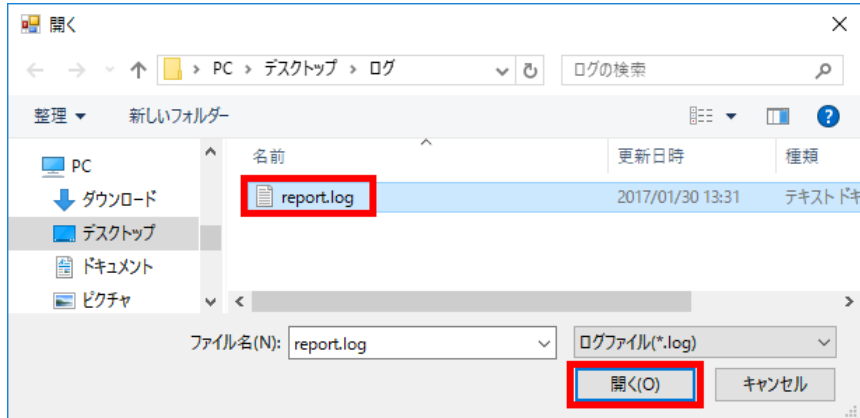
C:\ProgramData\JDraf NLM\log

※ Windows の既定の設定では C:\ProgramData フォルダは隠しフォルダになっていますので注意してください。

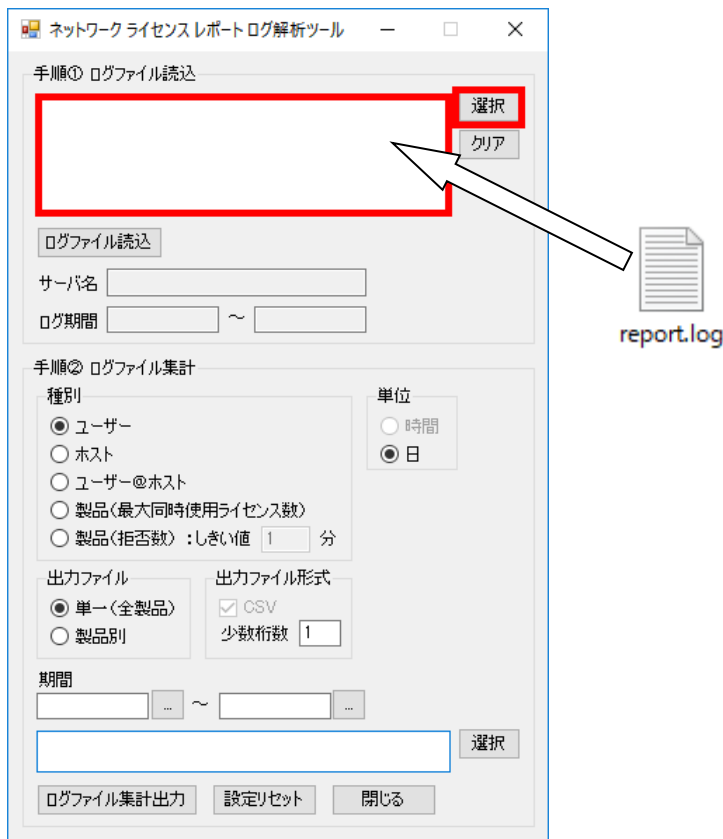
Windows エクスプローラーのフォルダ名を手入力できる場所に %ALLUSERSPROFILE% と入力して Enter キーを押して C:\ProgramData フォルダを表示させることもできます。



- ② [選択] ボタンをクリックしてログファイルを選択し [開く] ボタンをクリック または マウス左ボタンでログファイルを掴み、リストボックス内にドラッグアンドドロップしてリストにログファイルを追加します。

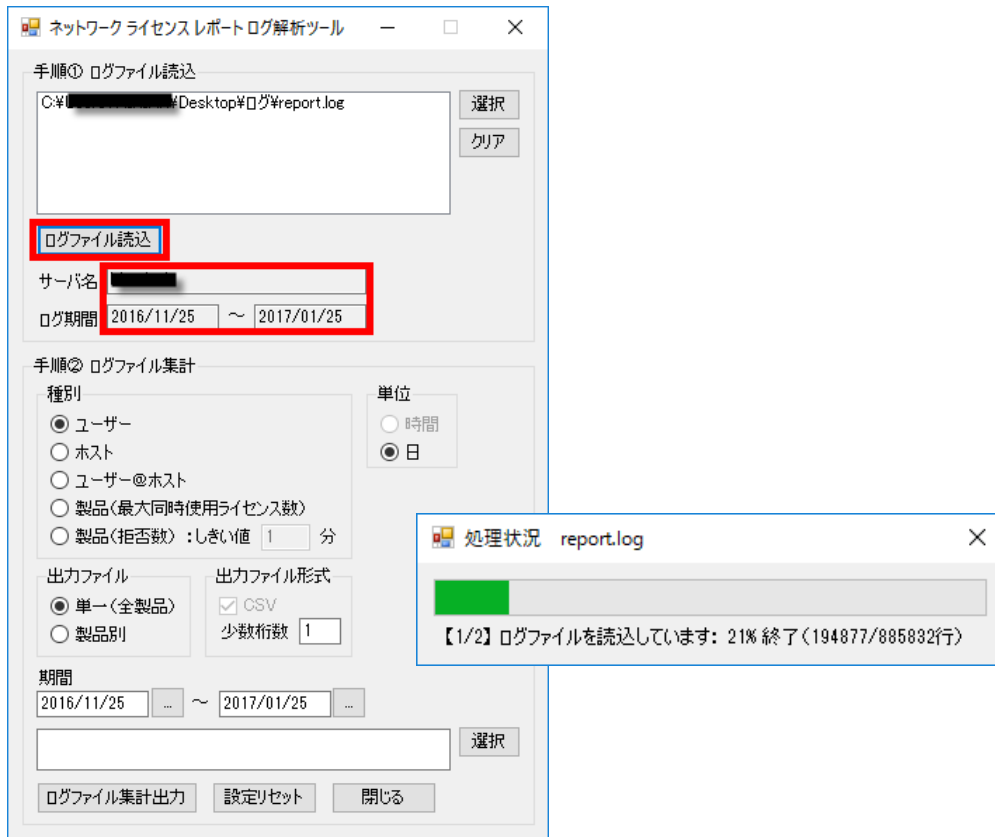


または



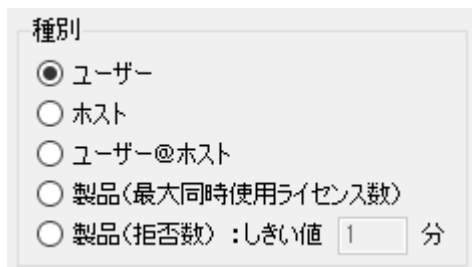
- ※ 複数のサーバーのログ ファイルを選択することもできます。

- ③ [ログファイル読込] ボタンをクリックします。  
読込中は、処理状況をプログレスバーで表示します。



- ※ 異なるサーバーのログ ファイルを読込した場合、ダイアログ内のサーバー名に「○○他」と表示されます。  
読み込まれたレポート ログ内の開始日と終了日がダイアログ内のログ期間に表示されます。

2. 種別を選択します。



- ※ ユーザー  
ユーザー名 (Windows のログイン名) ごとの使用時間の解析を行います。

- ※ ホスト  
ホスト名（コンピューター名）ごとの使用時間の解析を行います。
- ※ ユーザー@ホスト  
ユーザー名とホスト名の組み合わせごとの使用時間の解析を行います。
- ※ 製品（最大同時使用ライセンス数）  
製品ごとの最大同時使用ライセンス数の解析を行います。
- ※ 製品（拒否数）  
製品ごとのライセンスの発行が拒否された回数の解析を行います。

【しきい値とは】

例えば同じユーザーが短期間に連続で 10 回拒否された場合も、10 人のユーザーが 1 回ずつ拒否された場合も結果が 10 となると、実際にどれぐらいのライセンスが足りなくなっているかを判断することが難しくなります。

しきい値を指定すると、拒否されたユーザーの初回の拒否時刻を記憶し、その時刻からしきい値の分を加算した時刻内は、同じユーザーが何度拒否されても 1 回とカウントします。

例えば、A さんが 10 時 40 分 35 秒に拒否された場合、10 時 40 分 35 秒に 1 回拒否とカウントされ、下記の時刻内はカウントされません。

カウントしない時刻…10時40分35秒以上～10時41分35秒未満

10 時 41 分 35 秒からカウントを再開します。

3. 単位を選択します。



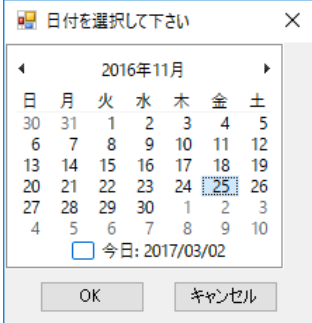
- ※ 種別が「ユーザー」「ホスト」「ユーザー@ホスト」の場合は「時間」は選択できません。

## 4. 期間を指定します。

期間  
2016/11/25 ... ~ 2017/01/25

※ ログ ファイル読込時に開始日・終了日が  
期間にデフォルト値として入ります。

※ テキストボックス内の期間を直接変更  
または カレンダーで変更をします。



## 5. 出力ファイルを指定します。

出力ファイル

単一(全製品)

製品別

※ ログ ファイルに複数の製品の情報があるとき、全製品を同じファイルに書き出すか、製品別に異なるファイルに書き出すかを指定します。

## 6. 出力ファイルの少数桁数を指定します。

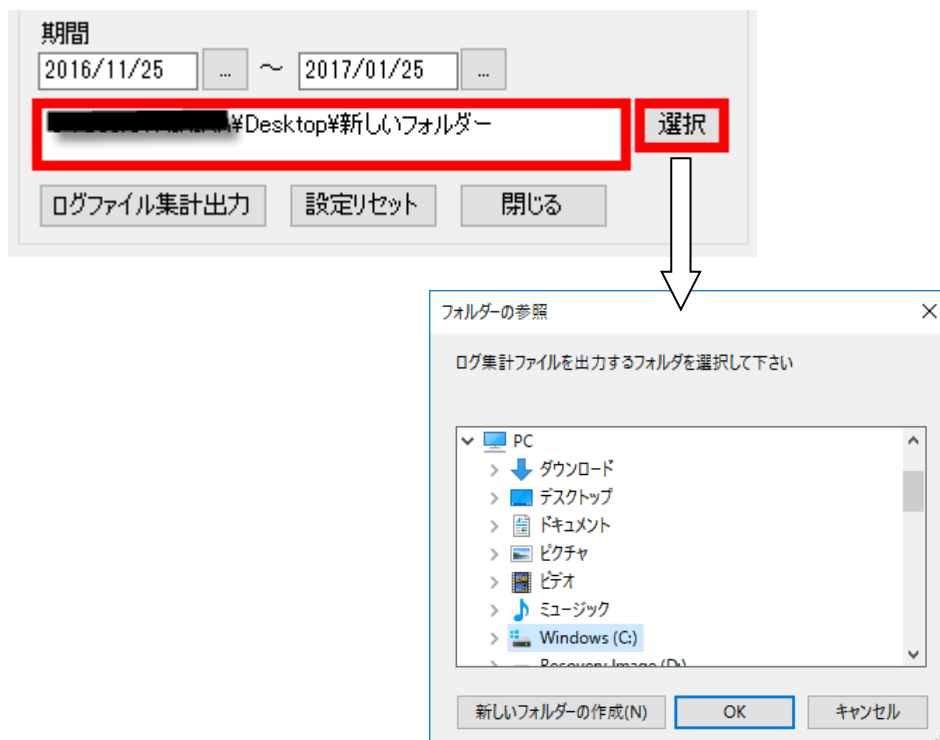
出力ファイル形式

CSV

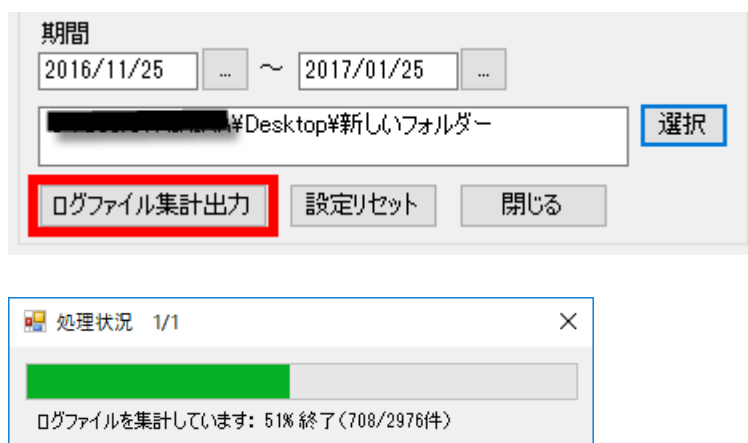
少数桁数

※ 種別が「ユーザー」「ホスト」「ユーザー@ホスト」の場合の表示時間に適用されません。

7. [選択] ボタンをクリック または リストボックス内に直接入力し、ログ集計ファイルの出力先を設定します。



8. [ログファイル集計出力] ボタンをクリックします。  
集計中は、処理状況をプログレスバーで表示します。



※ 集計後、次回から前回指定したフォルダがデフォルト値になります。



## 解析結果の例

### 種別で「ユーザー」「ホスト」「ユーザー@ホスト」を指定したとき

ユーザー	1月16日	1月17日	1月18日	1月19日	1月20日	合計
user1	2	2.6	4.2	2.4	4.7	15.9
user2	0	0	0	0	0.1	0.1
user3	0.5	0	0	0	0	0.5
user4	0	1.4	0	0	0	1.4
user5	0.2	0	0	0	0	0.2
user6	0	0.7	0.3	0	0.3	1.3
user7	0	0	0	0	0.6	0.6
user8	0	0	0	0.4	0.4	0.8
user9	0	0	0.5	0	2.5	3
user10	0.1	0	0	0	0	0.1

※ ユーザー毎の使用時間（単位：時間）が表示され、一番右に指定期間の合計使用時間が表示されます。

### 種別で「製品（最大同時使用ライセンス数）」を指定したとき

製品名	12月22日	12月23日	12月24日	12月25日	12月26日	最大値
gde_1136@ALL	2	3	1	0	2	3
gde_1747@ALL	69	57	29	6	75	75
gde_272@ALL	22	30	21	5	55	55

※ 指定した単位ごとの最大同時使用ライセンス数が表示されます。

※ 一番右に指定した期間内での最大値が表示されます。

※ 製品名に表示される内容として以下のようなものがあります。

gde\_1136@ALL : JDraf 2014、JDraf 2015、JDraf 2016

gde\_272@ALL : ARES Standard 2017、ARES Standard 2018

gde\_1747@ALL : ARES Commander 2018

## 種別で「製品（拒否数）」を指定したとき

製品名	理由	12月22日	12月23日	12月24日	12月25日	12月26日	合計
gde_272@14.00	-22	0	1	0	2	0	3

- ※ 指定した単位ごとの拒否されたライセンス数が表示されます。
- ※ 一番右に拒否された合計が表示されます。
- ※ 製品名に表示される内容として以下のようなものがあります。
  - gde\_1136@10.00 : JDraf 2014
  - gde\_1136@11.00 : JDraf 2015
  - gde\_1136@12.00 : JDraf 2016
  - gde\_272@13.00 : ARES Standard 2017
  - gde\_1747@14.00 : ARES Commander 2018
  - gde\_272@14.00 : ARES Standard 2018
- ※ 理由の列には拒否された理由を示す以下の値が表示されます。（-22 がライセンス数が上限に達したときの値です。）

Value	Meaning
-1	No authorization for product
-2	Authorization is for another ISV
-3	Authorization has expired
-4	Wrong host for authorization
-5	Bad key in authorization
-6	Requested version not supported
-7	bad date format - not permanent or dd-mm-yy
-8	checkout request for too many licenses
-9	No license auth supplied to call
-10	On excludeall list
-11	On feature exclude list
-12	Not on the includeall list
-13	Not on the feature include list
-14	Request would go over license MAX
-15	License (rlm)removed by server
-16	Unexpected response from server
-17	Error communicating with server
-18	License server doesn't support this
-19	No license handle

-20	Server closed connection
-21	No heartbeat response received
<b>-22</b>	<b>All licenses in use</b>
-23	No hostid on uncounted license
-24	License timed out by server
-25	In queue for license
-26	License syntax error
-27	Roam time exceeds maximum
-28	Server does not know this license handle
-29	On roam exclude list
-30	Not on the roam include list
-31	Too many licenses roaming already
-32	License expires before roam period ends
-33	Problem with roam file
-34	Cannot check out rlm_roam license
-35	Wrong platform for client
-36	Wrong timezone for client
-37	License start date in the future
-38	time() call failure
-39	Request goes over license soft_limit
-40	Clock setback detected
-41	Bad parameter to rlm_checkout() call
-42	Roam operations not allowed on failover server
-43	bad hostname in license file or port@host
-44	Application is inactive
-45	User is not on the named-user list
-46	Terminal server/remote desktop disabled

## レポート ログの分割

レポート ログのサイズが大きくなると解析処理に時間がかかるようになります。

rlmutil.exe を使用すると、レポート ログを分割することができます。

### rlmutil.exe を使用してレポート ログを分割する方法

ライセンス サーバーにて以下の手順を行うことにより、レポート ログを分割することができます。

1. Windows の [スタート] をクリックし「プログラムとファイルの検索」のところに cmd と入力して Enter キーを押します。(コマンド プロンプトが開かれます。)

2. 以下を入力して Enter キーを押します。

<32 ビット版 OS の場合>

```
cd "C:\Program Files\JDraf Co Ltd\Network License Manager\BIN"
```

<64 ビット版 OS の場合>

```
cd "C:\Program Files (x86)\JDraf Co Ltd\Network License Manager\BIN"
```

3. 以下のいずれかの方法で新しいレポート ログを作成します。

```
rlmutil.exe rlmnewlog graebert <ファイル名> -c <ライセンス ファイル>
```

<例>

```
rlmutil.exe rlmnewlog graebert "C:\ProgramData\JDraf NLM\log\201404.log" -c  
"C:\ProgramData\JDraf NLM\n0.lic"
```

```
rlmutil.exe rlmnewlog graebert <ファイル名> -c <ポート番号>@<ホスト名>
```

<例>

```
rlmutil.exe rlmnewlog graebert "C:\ProgramData\JDraf NLM\log\201404.log" -c  
2700@nlmsrver
```

```
rlmutil.exe rlmnewlog graebert <ファイル名> -c <ポート番号>@<IP アドレス>
```

<例>

```
rlmutil.exe rlmnewlog graebert "C:\ProgramData\JDraf NLM\log\201404.log" -c  
2700@192.168.0.1
```

- ※ 「renaming old graebert report log to <ファイル名> - are you sure? [y/n]:」と聞かれたら Y を入力します。

-q をつけると「renaming old graebert report log to <ファイル名> - are you sure? [y/n]:」と聞かれることなく rlmutil.exe が実行されます。ただし、エラーがあった場合エラーメッセージも表示されません。

<例>

```
rlmutil.exe rlmnewlog graebert "C:\ProgramData\JDraf NLM\log\201404.log" -c
2700@nlmserver -q
```

- ※ 現在のレポート ログ (report.log) が <ファイル名> で指定した名前に変更され、新たに report.log が作成されます。  
このとき、<ファイル名> で指定したファイルが既に存在すると「Error in reportlog rename」と表示されエラーとなりますので、存在しないファイル名を指定してください。

#### 【参考】

以下にレポート ログを分割するバッチの例を示します。

- ※ 64 ビット OS での例となります。32 ビット OS の場合は「C:\Program Files (x86)」の部分を「C:\Program Files」に変更してください。
- ※ 2700@NLMSERVER の NLMSERVER はライセンス サーバーのホスト名になります。実際に実行するサーバーのホスト名に変更してください。
- ※ このバッチを実行するとレポート ログが分割され、C:\ProgramData\JDraf NLM\log フォルダの下に OldLogs というフォルダが作成され、その中に<日付>\_<時間>.log (例: 20150115\_141450.log) というファイルが作成されます。

```
REM =====
```

```
REM 古いログファイル用のフォルダ名を設定
```

```
set OldLogFolderName=C:\ProgramData\JDraf NLM\log\OldLogs
```

```
REM 古いログファイル用のフォルダの作成
```

```
IF NOT EXIST "%OldLogFolderName%" (
```

```
    mkdir "%OldLogFolderName%"
```

```
)
```

REM ファイル名を設定

```
set FName=%DATE:~-10,4%%DATE:~-5,2%%DATE:~-2%_%TIME:~-0,2%%TIME:~-3,2%%TIME:~-6,2%
```

REM ログファイルの分割を実行

```
cd "C:¥Program Files (x86)¥JDraf Co Ltd¥Network License Manager¥BIN"
```

```
rlmutil.exe rlmnewlog graebert "%OldLogFolderName%¥%FName%.log" -c 2700@NLMSERVER -q
```

REM =====